

令和3年度山形県農業普及活動外部評価結果について

1 普及指導活動の体制について（組織・人員体制、普及指導員の資質向上の取組み等）

①評価点

- ・研修会参加者の多さなど、日ごろから農業者との信頼関係ができていると感じる。また、各普及センター間の連携もよくできている。
- ・しっかりと地域の実施方針が策定され、計画的な普及指導活動が展開されている。

②提案・意見

- ・スマート農業の普及などについては、広域での対応がより効果的であると考ええる。
- ・プロジェクトに小売などの流通事業者とも連携して所得向上をさらに具体的にしてほしい。また、長期的なビジョンも加えてほしい。

③意見を受けての改善点

- ・スマート農業の推進については、「みんなが使えるスマート農林水産業」の実現を目指し、民間企業、市町村、JA等と一体になり、県内各地でICTを活用した新技術の開発・実証・普及指導活動に取り組んでいく。
- ・各プロジェクトにおいては、課題毎に関係機関によるプロジェクトチームを編成しチーム会議開催により情報共有を図っている。引き続き、他地域との連携を強化し、横断的な取組みとなるよう普及指導活動を行っていく。

2 普及指導計画について

【評価】 A：優れている B：妥当である C：見直しが必要

(1) りんご黒星病の総合的な防除対策の推進

【A：6名】

①評価点

- ・全国的にも発病が増えている「りんご黒星病」について、部会として取り組んだことは評価できる。定期的な防除が効果がある事が生産者にも伝わり、成果が現れたのは評価できる。
- ・防除暦の強化、防除情報のPR、実証圃での検証など様々な地道な取組がなされていて、目に見える成果へとつながっている。

②提案・意見

- ・他の地域でも、この取組を優良事例として普及してほしい。
- ・今後は取り組みの継続と、継続のための「省力化」（情報共有のルーティン化）などが大切になってくるかと考える。

③意見を受けての改善点

- ・りんご黒星病の撲滅に向けては、主産地である西村山・北村山の普及課とも連携し、県全体で取り組んでいく。各産地で、黒星病は減少傾向となっており、引き続き産地間で連携しながら防除対策を推進していく。
- ・取組を継続していくためには省力化が重要と考えており、産地全体としては、SNSや

HP 等を活用した情報共有を進めていく。加えて、発病が多い園地にターゲットを絞り込むことで、より効率的・効果的な取組となるように進めていく。

(2) 1 億円産地を目指した夏秋なすの産地強化

【A : 3 名、B : 3 名】

① 評価点

- ・露地栽培の難しさを踏まえたうえでも困難な課題に取り組んでいる点は評価できる。
- ・1 年目で、生産量増などの数値成果が見られ、それ以上に対象者の取組意欲が高まっていることが評価できる。世代交代については重要な課題であり、そこをスムーズに行うことについては大変価値があると考ええる。

② 提案・意見

- ・重点指導者のうち、前年単収を上回った例を分析して、栽培技術の向上につなげてほしい。
- ・労力軽減対策やハウスでの抑制栽培などさらに拡大する対策を検討してほしい。

③ 意見を受けての改善点

- ・前年単収を上回った重点指導者に関しては、前年に比べて圃場管理が適切になされ、病害虫の被害も抑えられており、単収向上につながっている。なお、施肥タイミング・回数やかん水量、整枝の方法等の改善点について引き続き技術支援していく。
- ・出荷作業の簡略化や栽培の省力化等も検討しながら、産地維持に向けて支援していく。

(3) スマート農業と GAP 推進によるすいかブランド産地の強化【A : 5 名、B : 1 名】

① 評価点

- ・IT システムだけでなく、トヨタ方式を取り入れた「プロセス改善」による作業時間の短縮は目覚ましいものがある。システム改善のポイントやコストにかかわる課題が見えてきたのも大きな成果である。

② 提案・意見

- ・気象観測装置を設置して、収穫日を予測することは生産者にとって、とても有益である。それぞれの農家の目安ともなるので、これからも続けてほしい。
- ・スマート農業は、コストや技術の汎用性等の課題などを明確化するための取組や実証の継続が必要。
- ・トヨタ生産方式を広域に浸透させる取組に期待したい。

③ 意見を受けての改善点

- ・地域ごとの農家の判断で試し割りし、収穫を判断するツールとして普及を進めていく。
- ・コストや実用面で普及可能な技術から導入を進めるとともに、実証を通じて利用法

- を現場にあわせて工夫するなどして課題解決を図っていく。
- ・特に新規就農者を対象に、改善の取組を浸透させていく。

(4) 連作障害克服によるトルコぎきょうの産地再生

【A : 4名、B : 2名】

①評価点

- ・防除指導において、圃場のリスクを同基準で評価できることを目標としたマニュアル作りを生産者との協議を重ねて整備されたことは大変素晴らしい。
- ・全戸の状況把握、マニュアル対策、数字による意識改善、作業受託の仕組みづくりなど、生産者と一丸になって、熱心に活動している。

②提案・意見

- ・今後はマニュアルの精度向上と運用の徹底を行うこと、継続性が大切になってくるものとする。

③意見を受けての改善点

- ・今年度末に、現場の調査結果や事例を踏まえたマニュアルの改訂版を発行する予定。他地域からの要望で、全県で利用できる内容としており、県全体で被害を減少させることができるよう取り組んでいく。
- ・令和4年度は、マニュアルによる評価と対策実施率を100%、被害面積30%以上の農家を6戸から2戸以下にすることを目標に、個別指導や巡回、講習会を継続して実施していく。

(5) 大規模和牛繁殖経営体の育成による子牛産地の強化

【A : 3名、B : 3名】

①評価点

- ・育成管理はベテランの経験と勘が大切だという考えが強いが、ICT装置や分娩監視装置の活用などにより事故低減した成果は評価できる。
- ・繁殖雌牛の増頭、生産性の向上、子牛の肥育状況の改善など、各々の項目において数値の上昇など成果が見て取れる。

②提案・意見

- ・分娩間隔短縮による経費削減の数値、分娩事故発生時のマイナス金額もわかればなお良い。
- ・これからもさらなる飼養管理技術の向上に取り組んでほしい。

③意見を受けての改善点

- ・分娩間隔短縮による経費削減および分娩事故によるマイナス金額は試算しており、試算結果については、農家へしっかりと伝え、分娩間隔の短縮および子牛事故の抑制による収益の向上について、意識を醸成できるような普及計画を作成していく。

(6) 「雪若丸」を核とした産米の安定生産

【A：4名、B：2名】

①評価点

- ・品種の特性を生産者に理解してもらうため、研修会を複数回開催するなど、地道な活動が評価できる。
- ・1等米比率の高さをキープしていることなど成果が出ている。
- ・リモートセンシングの活用などは広域であればこそその取組であり、大変有意義である。

②提案・意見

- ・GAPやスマート農業のさらなる理解が必要。現時点でしっかりと問題点を洗い出し、2年目に繋げていくことが必要である。
- ・GAP導入はブランドの信頼を高めるためには必須となるので、引き続き啓蒙が大切である。さらに、認証による外部評価の向上のみならず生産者一人一人の意識向上に大きく関わることであり、今後の推進に期待する。
- ・本年度の米価低迷で、来年度以降も意欲的に取組む生産者が増えると考えられる。今後も指導をお願いしたい。

③意見を受けての改善点

- ・GAPとスマート農業については、研修会の開催により理解醸成を図るとともに、各種実証展示圃の活用などにより導入推進に取り組んでいく。
- ・リモートセンシングについては、研修会等で技術を広く周知し、生産者への活用、定着を促進する。
- ・令和4年産の「雪若丸」の生産者増加が見込まれている。特に、新規の「雪若丸」生産者には、栽培マニュアルに基づいた栽培指導を徹底し、品質・食味の高位安定を確立していく。

(7) スマート農業の推進による「つや姫」の高品質・良食味米の安定生産

【A：5名、B：1名】

①評価点

- ・圃場の分散化に伴う管理のやりづらさを改善できる取組は評価できる。
- ・取組の初年度ということもあり、まずは組織化とリモートセンシング技術の普及のための下準備がしっかりなされたということは評価できる。

②提案・意見

- ・技術の浸透には「効能の理解」が大切であり、センシング技術の普及と同時に、モデル地区の「効果」をフィードバックすることが必要である。
- ・技術を使った生産者の声などを聞ければよかった。

③意見を受けての改善点

- ・技術の効果をフィードバックできるよう、モデル地区で活動事例の作成を目標に位

置づけていく。

- ・技術を使用した生産者の反応をとらえる「モニターの設置」を計画していく。

(8) 粳米サイレージ（粳米SGS）を基軸とした濃厚飼料の製造・利用による畜産経営規模拡大支援

【A：5名、B：1名】

①評価点

- ・肥料の高騰、肥料自給率の向上など、今注目されている課題設定は評価できる。
- ・粳米SGSの取組面積増加、給与比率高水準、飼料費低減割合も増加しており、しっかり活動の成果が表れている。

②提案・意見

- ・給与実証を長期に設定し、普及に今後期待する。
- ・省力化実証も着実に行われていることから、今までの成果を、生産者へのPRはもちろん、流通業者等へのPRにもつなげていくことで、「価値」を高めて取引価格の向上などにも繋げていただきたい。

③意見を受けての改善点

- ・令和4～5年度の2年間、新たに「国産飼料の生産・利用拡大による畜産経営規模拡大支援」という課題を設定し、粳米SGSの給与実証牛6頭程度を設置して、普及を進めていく。

3 総評

①評価点

- ・課題として、非常に的を射ており、良い取組みをしている。現場との乖離は多少なりともあるとは思いますが、何年か積み重ねていって、生産現場に活力が注がれると思っているので、長い目で見ていきたいし、そういったことが期待できる内容となっている。
- ・生産者は横のつながり、縦、横、斜めのつながりを求めており、そこをつなぎ合わせるのも普及の大切な役割と感じた。

②提案・意見

- ・ICT、スマート農業の課題が増えてきており、若者が農業をやる上で、マニュアル的なものがあるのは心強い。数値の見える化、データの蓄積は重要であり、どう活用するのかにベテランの知恵が必要。その融合を進めてほしい。
- ・育てる楽しみ、数値でははかれない部分、面白さをICTにどう加味していくか、人間ならではの知恵とイメージとストーリーの結びつきが大切になってくる。

- ・プロジェクトは誰と組むかも大事。小売り、市場などの流通業者、販売の部分も巻き込み、プロジェクトのゴールとして、生産者の所得向上についても明示してほしい。
- ・10年、15年後のビジョンがあれば、さらによい。

③意見を受けての改善点

- ・委員の皆様からいただいた貴重な意見を次年度の普及計画に反映し、長期的な視点を持ちながら、ICTの活用においても、県民視点、現場主義、対話重視を理念に、県農業振興のために地域に密着した普及活動を行っていく。